

京築元気もん



西塔企画 代表 **西塔 大海さん**

生み出し、つなげ、育てる地方創生

慶應義塾大学SFC研究所上席所員。東京大学大学院修了。東日本大震災を機に宮城県で「一般社団法人気仙沼復興協会」を学生起業し、4年で400名以上を雇用し復興事業にあたる。その後上毛町に移住。上毛町地域おこし協力隊として立ち上げた「みらいのシカケ」移住プロジェクトには、電車もバスもない山奥に年間のべ1200人が移住や地域活性、地域ツーリズムの相談・視察・交流に訪れました。この活動はyahoo!ニュースに掲載され、全国紙「ワコト」の表紙を飾るなど大変注目されました。現在は地域の未来を創っていくため、観光交流と移住定住の間にある様々なプロジェクトを立ち上げています。西塔さんから掲載に当たりコメントをいただきましたのでご紹介いたします。

「東京から上毛町へ夫婦で移住してきて6年。世帯数16世帯の里山集落に暖かく迎えていただき、娘も生まれ、家族3人で暮らしています。移住当初の3年間は地域おこし協力隊として活動し、移住者の呼び込みや関係人口づくりに取り組んできました。おかげさまで、プログラマーやデザイナー、ライターのような仕事の方が移住してきました。なかには蕎麦屋「白水」さんや、餃子屋「お多福」さんのようにお店をオープンさせた方もいらっしゃいます。地元の若者が、地域の空き家課題の解決のために不動産屋を起業するなど、少しずつ町に変化も現れてきたようです。現在は、地域づくりの企画を仕事としています。なかでも地域の担い手となる「地域おこし協力隊」の募集や活動支援をさせていただくことが増えました。北海道から鹿児島まで、職員研修や制度設計をしています。」

西塔さんは、高校から不登校・ひきこもりになり、ニート、フリーター、バックパッカーを経て大学へ進学したそうです。相談者一人ひとりに向き合いながら最善の方向を一緒に考え行動する至誠やあたたかな人間力は、たくさんの経験から生まれてきたもの…これからもまちづくりや人材育成、起業などを通して地域に好循環を生み出すことでしょ。

(レポーター/リトルミイ)



話題
のお店

Keichiku
famous shop

マビィ
×
HAIR



女子力アップ&創業支援の町 吉富町

吉富町の創業支援をうけて今年3周年目を迎えた美容室です。併用住宅で定住化促進制度を利用して隣の大分県中津市から移住してきた店長の上田純子さん。「何よりも町の子育て支援が充実していて、とても住みやすく助かっています。」MAVIEというのはフランス語の「私らしく」という意味から名づけられたそうです。美容品類の販売も取り扱っています。店の人気商品は、育毛シャンプー「MONALI(モナリ)」です。ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

(レポーター/ギア)



Shop Information

[住] 吉富町幸子359-1
[☎] 080-8573-0540 [休] 月・第3日曜
[営] 9:00~18:00 [P] 有り

・カット&ブロー 3,500円
・パーマ 7,000円~
・カラー 4,500円~ ※すべて税抜き



編集後記

本年度から京築応援団便りの編集に関わらせていただき、今回初めて記事を書きました。取材を通じて、代々伝統を受け継いできた神楽人の熱い想いを感じました。秋号恒例の神楽特集となっております。取材にご協力いただきました皆様ありがとうございました。京築の神楽人の歴史をぜひご覧ください！

(レポーター/ギオン)

京築応援団便り
豊のくにけいちく

「京築応援団」団員募集中! (入会無料)

京築を応援するファンクラブに入りませんか?
お申し込みは「京築まるごとナビ」から

発行：京築連帯アメニティ都市圏推進会議 事務局（福岡県広域地域振興課内）
企画編集：京築応援団会報編集委員会、豊の国海幸山幸ネット
問い合わせ：福岡県広域地域振興課 ☎812-8577 福岡市博多区東公園7番7号
TEL.092-643-3178 / FAX.092-643-3164 / E-mail.koiki@pref.fukuoka.lg.jp



けいちく
京築ってココ



EVENT CALENDAR



行ってみちよくれ

苅田町 苅田山笠 突き当て

10月6日(日)14:30頃~

■会場 苅田町役場東側駐車場

町内の各区から派手に装飾された山車が会場に集まり、山車が激しくぶつかり合います。4トンを越す山車のぶつかり合いはまさに圧巻です。

●問い合わせ 苅田山笠実行委員会(苅田町観光協会内)
☎093-434-5560

上毛町 上毛祭

10月13日(日) 12:00~19:40

■会場 大ノ瀬官衙遺跡(道の駅しんよしとみ横)

京築子ども神楽フェスティバルやダンス等のステージイベントに加え、奉納台車レースや地域団体による出店など盛りだくさんの内容で開催します。

●問い合わせ 上毛町役場 企画情報課
☎0979-72-3112

豊前市 第29回豊前市カラス天狗祭り

10月27日(日) 10:00~20:00

■会場 フレスポくぼてんタウン

地元の新鮮な食材を使ったお店や、ご当地グルメのオニメンはもちろんのこと、宮城県東松島市の牛タンやホタテなどが楽しめます。ステージイベントも盛りだくさんです。

●問い合わせ 豊前市役所 観光物産課
☎0979-82-1111

築上町 第9回築上町神楽・民俗芸能祭

10月27日(日) 10:00~17:00

■会場 築上町コミュニティセンター(ソピア)

築上町の神楽・民俗芸能が一堂に集う日。郷土の伝統文化に触れる機会です。優雅な舞や荘厳なお囃子をお楽しみください。今年も町外団体をお招き予定です。

●問い合わせ 築上町役場 企画振興課
☎0930-56-0300

吉富町 第2回よしとみガールdeマルシェ
“収穫の秋フード”

10月27日(日) 10:00~15:00

■会場 吉富駅前広場

吉富町と隣接する豊前市・中津市の合同イベント「県境を越えて電車でハロウィン」。吉富駅・三毛門駅・中津駅でハロウィンイベントを同時開催します。

●問い合わせ 吉富町役場 産業建設課
☎0979-24-4073

行橋市 行橋産業祭「愛らんどフェア」

11月9日(土)~10日(日)

■会場 行橋総合公園、行橋市民体育館

行橋市内の商工業・農林水産業などの各企業・団体が一堂に集まる行橋市を代表するイベント。企業による展示や、特産品・野菜などの販売、ふるまいやステージイベントなど行います。9日は京築神楽フェスティバルも同時開催！

●問い合わせ 行橋市役所 商業観光課
☎0930-25-1111(内線1221)

みやこ町 第14回みやこ町産業祭
よってこ屋祭inみやこ

11月16日(土)・17日(日) 9:30~17:00

■会場 犀川支所前広場

ステージイベントの他、特産品などの出店やフリーマーケットなどが2日間行われます。また、16日(土)には、愛郷音楽祭も会場内で同時開催されます。

●問い合わせ みやこ町役場 観光まちづくり課
☎0930-32-2512

京築応援団便り

豊のくに
けいちく

Toyonokuni Keichiku.2019 October

©IZUMI HARAGA

秋
vol.36



来てみちよくれ
秋の京築

舞い踊る

猿田彦が息づく里

京築の神社に神楽囃子が鳴り響くと

天孫降臨の場面から飛び出した

「ミサキ」「御先」「駆仙」などと呼ばれる

鬼の面をつけた猿田彦が舞い踊ります。

荒ぶる神にパワーをいただく

里神楽巡りはいかがですか？

受け継がれていく
神楽の伝統

湊金富神楽保存会

築上町

明治初めに神職が神楽を舞うことを禁じられ、築上町の神楽もその対象となりました。その後、神楽は、宇都宮氏代々の産土神・岩戸見神社(伝法寺)の宮司によって、氏子達に伝授されました。

こうして、多くの継承者が育ち、現在築上町には7つの神楽団体があります。その内のひとつ、湊金富神楽保存会は、戦後、赤幡神楽から伝授され復活しました。途中、何度か中断し、先人の残したビデオを観て、舞い方や囃子を覚えていきます。実際に肌で感じるできない点が、難しいとのこと。また、今でも赤幡神楽保存会と交流があり、今年は、互いの神社で神楽を奉納し共演しました。団体の枠を越えた交流は、新たな神楽の継承の方法なのかもしれません。

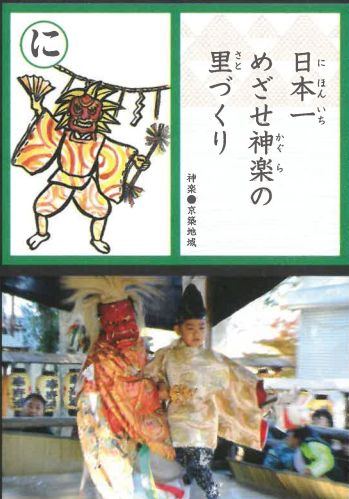
(レポーター/うめといと)



豊の国 京楽かるた紀行 神楽（京楽地域） 日本一めざせ神楽の里づくり

京楽地域には30もの神楽団体が活動しています。いつからこの地方で神楽が舞われるようになったのか正確にはわかりませんが、江戸時代に残された記録などを見ると中世後半、約700年前には山伏などにより演じられていたと考えられます。

記紀神話をモチーフとした仙（御先）神楽や岩戸開き、英彦山六峰の山々で行われていた豊前修験道最大の祭礼である「松会」の幣切り神事の影響を強く受けた「湯立神楽」などが代表的な演目です。明治の初めには、途絶えそうになった神楽も地元の氏子たちが受け継ぎ、春と秋に各地の



応援団ひろば 奉納神楽ガイド・神楽カード紹介 「京築神楽奉納神楽ガイド」を片手に京築神楽めぐりへ！

この度、京築地域で行われる奉納神楽情報を神楽観賞が初めての方にも分かりやすくお伝えするために、「奉納神楽情報紹介リーフレット」を制作しました。神楽情報の他、京築地域のおすすめスポットや宿泊先情報など、魅力満載のリーフレットです。京築応援団の会員の皆様への郵送のほか、福岡市内の公共施設、福岡市・北九州市観光案内所などでも配布します。



「京築神楽カード」を集めよう！
京築地域で行われる奉納神楽では、鑑賞いただいた方に先着で「神楽カード」を配布しております。また、8種類以上集めた方には先着で素敵な景品をご用意しています。

＊詳細はHP「京築まるごとナビ」をご覧ください。
＊応募締切：2021年9月30日（※無くなり次第、終了）
（レポーター/おでん）

●問い合わせ 京築連帯アムニティ都市圏推進会議事務局
（福岡県企画・地域振興部広域地域振興課） ☎ 092-643-3178

光富神楽の歴史

光富神楽 一 みやこ町



光富神楽は、明治37年（1904）以前に旧築城町赤幡神楽の伝承を受けて始まりました。以来、昭和の初期にかけて近くの村から行橋、田川、築城方面へも招かれるほど盛んに取り組まれていました。しかし、農家の人が勤めるようになると後継者が育たず、20年余り休止状態となりました。

やがて、昭和56年（1981）の夏に当時の会長雪山峯隆さんのもと光富区郷土芸能保存会が結成されました。雪山会長は、神楽・どんど焼き・神待ち・盆踊りなどの過去にあった行事の復活に努力を続けており、神楽の消滅危機についても行政区に訴え、活動の資金を準備しました。そして、神楽の経験者に5人の子どもを加えて保存会を再発足し、今日に至っています。

（レポーター/パール）

神楽の面打ちに邁進

堀正弘さん 一 荻田町



神楽の面打ちをされている堀さんが、初めて奏楽（シャンガラ）として神楽に携わったのが平成18年（2006）。平成15年（2003）に赤幡神楽から伝授された南原神楽が復興してからのことでした。

能面づくりの経験がある堀さんに「四方鬼面」を打って欲しいとの要請があり、平成18年から堀さんの面打ちが始まりました。没頭したら食事をとることさえ忘れる程、気迫の籠った面打ち。今では「御先」を始め、様々な演目の神楽面を打つまでに、自分が打った面をつけ、神楽を舞った時の気分は感無量だそうです。これから神楽を広めるためにも、神楽面を京築のお土産として特産品にできたら…と想いは大きくなります。

（レポーター/ノウサギ）



藁の大蛇を作ること

土屋神楽講 一 吉富町

土屋神楽講では、秋の奉納神楽のために、昔ながらの作り方を受け継いで、その年に収穫したばかりの藁を使用して大蛇を作ります。横槌で藁を叩き曲げやすくした後、2本ずつ束ねたものを編みながら上あごと下あごを作り、赤い紙で包んだ舌をはさみ、胴の部分は藁を継ぎ足しながら先端まで編みこんでいくと完成です。講長の指示の下、講員が力を合わせて1体を製作するのに5〜6人で約30分。『綱駆仙』と大蛇退治の演目で使います。『大蛇退治』で使った大蛇は刀で切断されるため一度きりしか使用できませんが、正月明けの「どんど焼き」で、櫓の最上部に飾られ古いお守りやお札と共に丁寧に燃やされます。

（レポーター/ギア）



神楽の衣装を作る

梅丸佛壇店 一 豊前市

梅丸佛壇店の枝光真理子さんが神楽の衣装を作るようになったのは、35〜6年前。各神楽講で衣装を縫っていた人たちが減り、生地を扱っていた梅丸佛壇店に声が掛かりました。裁縫が得意だったお母さんを手伝いながら、各神楽講の衣装の伝統を学び受け継ぎ、京築地域の天津の神楽講の衣装を1週間〜10日程で仕上げるそうです。衣装、道具、お面などを作る人々が力を合わせることで、初めて神楽の舞台ができていきます。関わった人たちの想いながら神楽を見るのも、楽しみの一つです。11月に豊前市で行われる県民文化祭では、神楽集団「若衆」が出演する創作神楽「大蛇（オロチ）」の公演が予定されています。ジャズと太鼓などのコラボによる迫力あふれる舞台をご覧ください。

（レポーター/ヒメジャガ）



小学生がクラブ活動の時間に、稲童神楽保存会の大先輩にレクチャーを受ける「神楽クラブ」。今年度は4〜6年生の11人が、舞と笛に分かれ、月1回練習を重ねています。毎年新しいメンバーになるため、年度始めはいつも初めての連続になりますが、子どもたちの表情はイキイキとし終始笑顔。年度末には、学校の昼休みに発表会を行い、全校児童に神楽を披露。篠笛担当の児童の演奏に合わせ、衣装を纏った本格的な舞をみせているようです。小学校を卒業したら、地域の子ども神楽塾（毎週土曜日）へ、そしてゆくゆくは稲童神楽保存会で神楽が続けます。地域が一体となって子どもが伝統に触れる機会を増やし、それを継続し続けることが、伝統継承が難しいと言われる現代において、地域の歴史を後世に伝えるために最も大切なことではないでしょうか。

（レポーター/若草物語）

古き良きを現代に伝える

神楽・神社

そして人

神楽の神様に感謝して

上川豊秋さん 一 上毛町

豊前岩戸神楽の流れを汲んでいる成恒神楽講。明治に始まり、昭和初期に一旦途絶えていた成恒神楽を復活させた講長の上川豊秋さんは、小さな小さなキールホルダーサイズのお面を木材から彫って製作しています。約80本あるという彫刻刀を巧みに使い分け、30ミリの程度の木材から作られるお面は想像以上に小さく精巧です。これまで300個以上ものミニチュア面を作り上げ、チャリティー神楽公演などで販売する際には毎回大好評だそうです。小さなお面からも感じ取れる上川さんの神楽への情熱は、今後も継承や育成活動に注がれていきます。

（レポーター/ギオン）



京築民話の

ふるふる瓦版

その一

「豊の国けいちく」の特別企画「神楽版・修験瓦版」の続編として、新たに「京築民話のふるさと瓦版」のスタートです。記念すべき第一回目は、築上町の「鬼塚」(おんづか)です。

おながしま
鬼ヶ洲と呼ばれていた

鬼塚
onzuka

鬼の住む島といえば、桃太郎伝説の中に出てくる「鬼ヶ島」が有名ですが、実は京築にも鬼伝説が残る「鬼塚」という場所があります。昭和30年代の干拓事業で埋め立てられ広大な田んぼの真ん中に位置する「しいだアグリパーク」の水辺広場にある「鬼塚」です。

今は築山のように見えるこの島も干拓以前は、写真のように、干潮時には砂州が現れ陸続きとなる小島が、満潮時には浮島となっていました。この鬼塚にはいくつかの不思議な伝説があります。旧椎田町史からご紹介します。

むかーし、むかーし、
求菩提ん山に
鬼が住んじよったとこ。



いつも出てきちゃ、悪いこつんじようしよったとこ。作っちゃうもんや、荒らしちしまうし、人間な取っちゃ喰うし、誰もかりも困らちしもうちよった。求菩提ん権現さんが見かねち、鬼を呼んじ、「おいおい、わがぁ、毎晩でてきち、悪いこつんじようしよるの。おりん言うこつ聞いちみよ。できちから、わがん好きになごさせちやる。そんなかわり、できん時や、こん山から出ち行けー椎田の浜から大きな石を一番鶏泣くまでに持ちこい。」ち言つた。

なんぼ鬼でん、権現さんの言うこたあ、聞かんこつあならん。日が暮れちから、鬼は急いで浜へいっち、石を持ちこつッッッッッ登りだしたとこ。権現さんな、ひと寝入りしちから、なんぼなんでんまだ着くめいと思つたんけど、裏ん杉ん木に登つち見たら、もう龍城院まで来よったとこ。「こりゃあ、おおご。」急いでタコンバチ(笠)を持ちこち、杉ん木登つち、タコンバチをバタバタ二、三回させち、コケコウロち言つたとこ。

鬼はたまがच्च、もう夜が明けたと思つち、持つちよった石を、はがいがच्च海に投げたとこ。

こりが鬼塚よの。ほんぜき、鬼塚ん石や、みんなヒビがはいちよる。鬼は、行く所がねえなき、権現さん方裏じ、首つち死んだとこ。権現さんが、おげながच्च、首は石が落てたとこ(鬼塚に、胴は龍城院に、足は求菩提ん山に埋めたとこ。それからなんぼ雨が降ってん、足くびしか浸からんなき、鬼塚はぜったい水に浸からんのよ。

龍城院の山には、今でも大きな石が一個、オオコウ(かつぎ棒)にした大きな長いのが一個、杖に似たちよつと短いのが一個、みんなで三個残つちよる。こりが鬼石つちゆう話。

悪行が過ぎ、終いには首を吊って死んだという、こんな少し悲しい鬼伝説が残る鬼塚に行善という実在した僧が登場します。

〇隼人の乱の際に、行善は勅宣により求菩提山で異敵調伏の祈禱を行い、その報賽として求菩提山護国寺の伽藍建立を許されたと記されています。隼人の乱鎮圧の総大将は「令和」で有名になった大伴旅人であり、隼人の霊を慰めるために始まったのが、宇佐「放生会」です。小さな鬼塚は、まさに歴史の大舞台に立っていたことが伺い知れます。

そして、鬼から村人を守る知恵を授ける役割が山伏だったのではないでしよるか。鬼塚から見えて、南にそびえる求菩提山(標高782m)へ向かう最短距離は、真如寺川に沿って、小原、キャンプ場のあった龍城院で、国見山から求菩提を目指す鬼が石を運んだ道です。求菩提山の山頂に向かう石段は、鬼の石段と呼ばれており、さらに山の奥には鬼伝説の残る犬ヶ岳(標高1131m)があります。今は途絶えてしまった求菩提修験道の祭礼の一つに、鬼塚への浜下り神事が行われていたようで、求菩提山と鬼塚は切っても切れない関係であることがわかります。

昔の鬼塚 | 大日本名所図録(明治31年)より



鬼塚に実在していた僧

行善
gyouzen



「弘安4年(1281)の元寇の役に、蒙古軍の死体、此の島に漂着せ史を、里人ども埋めて鬼塚と名となりしと、湊社の縁起に見ゆ」とあります。博多湾から逃れてきた蒙古の船に乗った人々は、とうとう力尽きてしまったのでしよ。これも悲しいお話です。

古来から、人は我が身を守るために異界のものを「鬼」と呼び、災害などの天変地異も「鬼」の仕業と考えていました。

石は、鬼が投げてひびが入ったと伝えられるような火山噴火に伴いできた溶結凝灰岩です。

椎田干拓地のまん中で移りゆく私たちの暮らしを見守り続けてくれている鬼塚の鬼に会いに行つてはいかががでしよつか?(トヨヒメ)

※参考文献
『椎田町史 民俗編』
『椎田町史 古くも読本』
『京築を歩く』
『築上ふるさと歴史散歩』第十四回鬼塚

今の鬼塚 | 築上町アグリパーク内水辺公園(椎田干拓)

